

令和2年3月13日
神戸学院大学 船木ゼミ

震災25年若者プロジェクト活動報告

《事業名称》

防災教材絵本「あっこちゃんのはさみ」を使った防災授業、教材の普及

《実施期間》

2019年9月から2020年3月

《実施内容》

- ① アニメーション動画「あっこちゃんのはさみ」の制作・発信
- ② 防災教材動画「あっこちゃんのはさみ」を用いた防災授業の実施

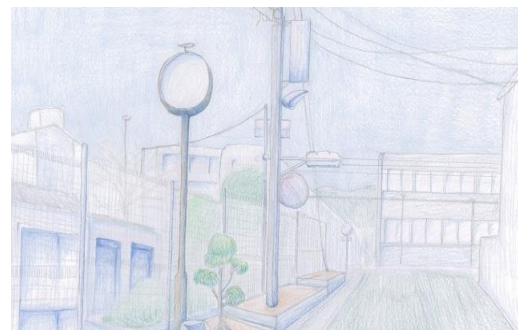
① アニメーション動画「あっこちゃんのはさみ」の制作・発信

私たちが昨年度、「あっこちゃんのはさみ」教材（絵本）を製作しました。本プロジェクトでは、このストーリーをさらに深め（語り部さんへの追加インタビュー）、アニメーション制作へと発展しました。アニメーションでは、映像関係者（NPO 法人映像記録スタッフ）が講師として指導をしていただきました。学生たちが動画編集の仕方を学び、自分たちでストーリー、映像編集、ナレーションなどを行い、防災教材動画「あっこちゃんのはさみ」が完成しました。震災から25年目の2020年1月17日にYouTubeで発信を行いました（<https://www.youtube.com/watch?v=YDUEF-fHfWo&t=143s>）。

《アニメーションについて》

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で家屋の下敷きになり、クラッシュシンδροームによって当時小学校5年生だった娘を亡くした母親の24年間の想いをまとめた「ある女性の阪神淡路大震災」を伝えるための事実の物語です。内容は、「震災前・直後の状況」「娘の生きていた証を残すために活動した母親と周りの人々との関わり」「震災から20年たって娘のはさみが見つかったとき」の大きく3つに分けて構成されています。

「あっこちゃんが生きていたことを伝えたい、震災によって小さな命が失われてしまったことを忘れないでほしい。」 私たち船木ゼミはその思いを引き継ぎ、震災を風化させないため、絵本という形に残しました。阪神・淡路大震災を語り継ぐと共に、このお話を通して「命の尊さ」「家族の大切さ」「当たり前の生活が当たり前ではないこと」を感じてほしいと思います。





② 防災教材動画「あっこちゃんのはさみ」を用いた防災授業の実施

2020年1月17日、神戸市立東須磨小学校の6年生を対象に授業を実施しました。アニメーションだけでなく、板書等を使い、「家族と過ごす普段の生活を大切にしよう」というめあてを設定し、授業を進めました。



《子どもたちの反応》

授業の最初にアニメーションを見せました。集中して見てくれ、その後、黒板を使ってお話の振り返りをしたが、こちらが投げかけた質問に的確な答えを出してくれました。話をしているときに児童はうなずきながら話を聞いてくれました。東須磨小学校6年生は、

教師の問題で複雑な心理状態の子どもたちが多いということで、「命」に係わる授業は難しいかと思っておりましたが、むしろいろいろなことがあったからこそ、真剣にこの授業に向き合う姿勢を感じられました。また、この日は保護者が参観に来られていましたが、授業後、涙を流しながら、授業に感動したこと、語り継ぐことの大切さ、子どもの命、日々の日常の大切さを実感したと話をしてくれました。

*この授業を2020年3月10日、11日に、東日本大震災の被災地にある仙台市立北六番町小学校、仙台市立南材木町小学校でも実施する予定であったが、新型コロナウイルスによる休校で実施は見送られた。

《活動の効果と今後の活動について》

「あっちゃんのはさみ」のアニメーションをYouTubeにアップしてすぐは10回ほどしか再生されていなかったが、現在では432回に増えてきた。今後も、広報を続けるとともに、阪神・淡路大震災を私たちよりも下の世代にさらに伝えていけるよう、兵庫県内だけでなく、いろいろな地域にでかけて防災出前授業を行っていく予定を考えています。

《取材について》

アニメーション制作活動においては、テレビと新聞で取材を受けました。

2020年1月17日 毎日新聞朝刊（別紙）

2020年1月17日 NEWS 23

